

マルモッタン・モネ美術館所蔵



Musée Marmottan Monet

モネ展

ジュニア
ガイド

「印象、日の出」から「睡蓮」まで

2015

9.19 sat

12.13 sun

クロード・モネ「睡蓮」(部分)1903年 Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Girardon



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

東京都美術館(東京・上野公園) **中学生以下無料** 9/19~9/30は**高校生無料** 観覧日(学生証の提示が必要)

開室時間: 9:30~17:30(金曜日、10月31日~11月2日は20:00まで)

ただし、「印象、日の出」展示期間[9月19日~10月18日]の金曜日・土曜日、並びに9月20日~22日、10月11日は21:00まで※入室は開室30分前まで

休室日: 月曜日、10月13日(火)、11月24日(火)ただし、9月21日(月)、10月12日(月)、11月2日(月)、11月23日(月)は開室

主催: 東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団)、マルモッタン・モネ美術館、日本テレビ放送網、読売新聞社、BS日テレ

特別協賛: 大成建設 文化庁 本展は政府による美術品保障制度の適用を受けています

お問い合わせ
03-5777-8600
(ハローダイヤル)

展覧会公式サイト
<http://www.ntv.co.jp/monet/>

見る ↔ 描く もっとよく見てみよう!

この展覧会では作品を見ながらお絵かきができる「とびらボード」を展覧会場の入口で中学生以下の方に貸出ししています。じっくりよく見て描くと新しい発見があるかもしれません。会期中にはボードを使ったワークショップも計画中! 詳細はウェブサイトでお知らせします。

美術館の展示室でのルールを守ってね!

- 1. 展示室では走らない。
- 2. メモを取るときはエンピツで。
- 3. 作品にさわらないでね。
- 4. 話すときは静かな声で。

モネ展

Musée Marmottan Monet

マルモッタン・モネ美術館とは？

1934年、今から81年前にオープンしたフランスのパリにある美術館。もともとポール・マルモッタンさんの家だった建物を使った美術館です。モネが亡くなるまでもっていたたくさんの作品は息子ミ

シェルが受け継ぎ、1866年、ミシェルの死後にマルモッタン美術館に入りました。このときから、マルモッタン美術館は画家モネの名前を加えて、マルモッタン・モネ美術館に名前をかえました。



©神戸シブシブ/NTV

展示されているのは、モネがずっと大切にしていた作品。どんな作品があるかな？



ビエールオーギュスト・ルノワール《新聞を読むクロード・モネ》1873年

友人ルノワールからのプレゼント

この絵は33歳のモネ。パイプから出るけむり、モネのひげなど、友だちのルノワールがどうモネを描いたのか、よく見て下さい。筆の跡が見えますね。

ルノワールもモネと同じ印象派を代表する画家。二人は、今でいえば同年代で、3ヵ月だけルノワールの方が年下でした。彼らの友情はルノワールが亡くなるまで60年近くつづきます。



クロード・モネ《ボンボン付きの帽子をかぶったミシェル・モネの肖像》1880年

家族の肖像画

この絵は色がめだられていない所もあります。なぜでしょう？

モネが描いた2歳半ごろの次男ミシェル。丁寧に細かく描くよりも、だいたんに描くことで、どんどん成長する子供の姿を自分が感じるまま、生き生きと表現したのです。

家にいないときは、まめに家族に手紙を書いていたモネ。子供は8人いました。会場にはミシェルが1歳、5歳のときに描かれた肖像画もあります。

お気に入りの庭を描いた絵

モネが自分で作ったお気に入りの庭には睡蓮の咲く池がありました。

モネはこの風景を日々ながめ、200点以上の睡蓮の絵を描いています。朝や夕方、晴れやくもりなど、時間や天気によって変わる水面を観察して、たくさんの睡蓮の池を表しました。



クロード・モネ《睡蓮》1917-19年

幅3メートルの大きな作品！

日本のことが好きだったモネ。日本に来たことはありませんでしたが、家には日本の版画(浮世絵)を飾り、庭には日本風の橋をかけ、桜やだれ柳など日本をイメージさせる植物も育てていました。

モネはいつ、どこで、何を描いたのか？

「印象派」という名前の由来になったモネの代表作のひとつ《印象、日の出》。この作品があったから、ミシェルは、父モネのコレクションをマルモッタン美術館に運んだと言われています。この作品、なんと描かれた時間まで調査されています！手がかりは、モネが少しだけ残した

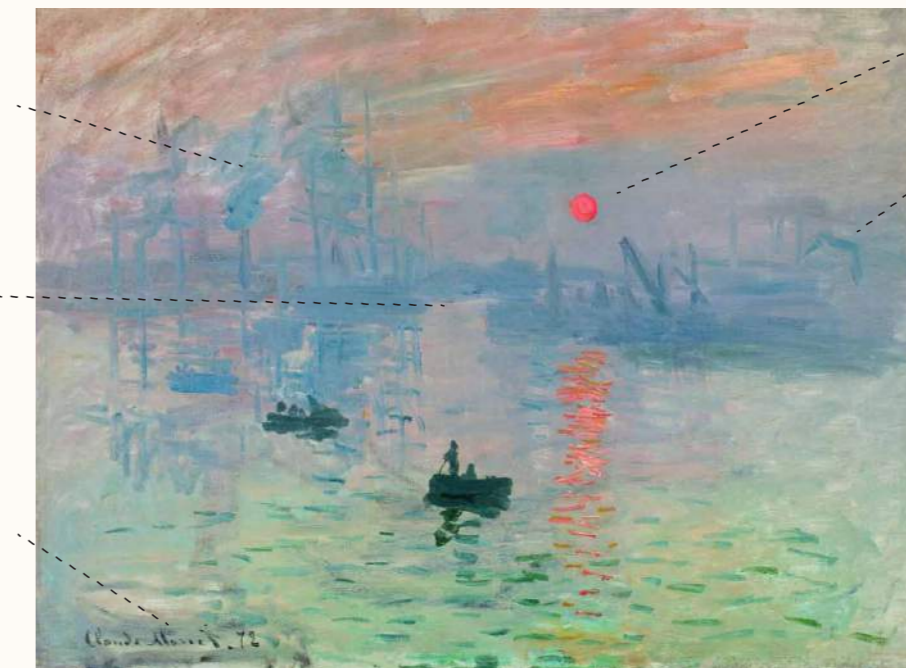
言葉や、この時代の地図や写真、天気や風向きのデータなど。2014年におこなわれた最新の研究では、モネはこの作品を1872年11月13日7時35分頃に描いた可能性がもっとも高いことが分かりました。この研究を少しだけ紹介します。

10月18日まで特別に展示！

煙は右へたなびいていますね。風は東から吹いている！

水門が開いているのを発見。1日のうち2、3時間しか開いていない門でした。

サインは「Claude Monet 72 (クロード・モネ72)」。それでも、1872年にモネがこの港に行った証拠がなかったため、長い間1873年に描かれたと言われてきました。



クロード・モネ《印象、日の出》1872年 Musée Marmottan Monet, Paris © Christian Baraja

描かれているのは、モネが5歳ごろから18歳までを過ごした町ル・アーヴルにある港。モネはおそらくアミロテ・ホテルの部屋からこ

の風景を描きました。画家になったモネが初めて描いた地元の風景。どんな思いを込めて描いたのでしょうか。

この位置に太陽がのぼるのは、1年半ばと11年半ばの年に2回だけ。

クレーンが描かれている！大きな船も見えるように工事がおこなわれていた場所だと分かりました。

印象派とは？

モネやルノワールなどの「印象派」と呼ばれた画家たちは、1870年頃からフランスのパリに登場します。パリの人々の日常生活など新しいテーマを描こうとし、技法としてはパレットの上であまり絵の具を混ぜず、筆の跡が残る新しい描き方をしました。光に注目し、よく屋外で描いたのも特徴のひとつです。



クロード・モネとは？ (1840-1926年)

1840年、モネはフランスのパリに生まれ、5歳の頃に港町ル・アーヴルに一家で引っ越します。

学校でもずっと・・・！

モネは、カリカチュア*（風刺画）が得意で、授業中もずっとノートに描いていたそうです。すぐに町中の評判になりました。

*カリカチュア：人の特徴をおおげさにしたり、物や動物に似せたりして人物を描いた絵。



クロード・モネ《創作家フランソワ・ニコライ、通称クレヴル》1858年

うんめいであ運命の出会い

しかし、もっと色を使って、風景を描いた方がよい、という画家ウジェーヌ・ブーダンのアドバイスを受け、モネは油絵の具で絵を描くようになり、絵の勉強のためにパリへ行きました。

10月20日から特別に展示！



クロード・モネ《ヨーロッパ橋、サンラザール駅》1877年

パリでの活躍

パリでは、たくさんの仲間めぐまれ、一緒に作品を制作したり、展覧会を開いたりしました。モネは「印象派」の画家と呼ばれ、新しい絵画の表現を探究しつづけていきます。



クロード・モネ《オランダのチューリップ畑》1886年

旅も大好き

作品が売れ、生活に余裕ができると、モネは絵を描くためにいろいろな土地へ旅に出ました。川ぞいや海辺など、モネのお気に入りには水と光のある場所でした。



クロード・モネ《睡蓮》1903年



クロード・モネのメガネ

ジヴェルニーへ

1883年、42歳のモネはジヴェルニーという村へ移り住みます。ここをとて気に入ったモネは、やがて近くの川から水を引いて池もつくります。時間や天気によって変化する水面を、モネはくり返し描きました。



クロード・モネ《バラの小道、ジヴェルニー》1920-22年

生涯現役！

それでも、モネは絵を描きつづけます。色彩あふれるエネルギー溢れる絵を見ると、80歳を過ぎててもかわることのないモネの情熱が伝わりますね。モネは1926年、今から89年前に86歳で亡くなりました。

《印象、日の出》以外の作品画像 Musée Marmottan Monet, Paris © Bridgeman-Giraudon